

ASSOCIA JOURNAL

June
2023

TAKE
FREE



VOL.09



Interview

アソシアを利用されている
方へのインタビュー



ホイスコーレ神戸に通所してもうすぐ半年になります。大学通学中、友人もなく自分のことを解ってもらえない辛さがありました。自分の後回し癖が重なり就学上の課題がでていた頃に大学の先生からアソシアを紹介されました。正直最初は、親や先生が言うのならという気持ちで利用を決めました。アソシアに来て一番良かったことは、自分の価値観を認めてくれるという点です。これまで、価値観を否定されることが多かったのですが、ここでは僕の話に耳を傾けてくれる人がいます。自分の中で何か変わったかどうかはまだわかりませんが、プログラムの中で得意ジャンルを披露でき達成感を得た体験が印象深いです。穏やかな人が多く居心地のいいこの場所で、自分探しを続けていこうと思っています。

協力：ホイスコーレ神戸 利用
Yさん（20歳）

ひとりで頑張らないで!! 育児は周りを巻き込んで。

暖かな眼差し、子育て支援や自立に向けた支援があると10代の妊産婦自身の大人（親）への育ちに繋がる。

赤 ちゃん置き去り事件など衝撃的なニュースを耳にするたび「もし自分だったら」新しい命を育みながら誰にも相談できず、気づいて貰えず不安の中、自分一人で出産してしまったら、どう対処しただろう。相談できる大人はいなかったのか、赤ちゃんの父親は？友達や学校の先生など、誰か一人でも気づいてくれたら状況は変わっていたのではないかと想像し涙が出てきます。そして、自分がどれだけ周りの人に恵まれていたか、助けられたのかを実感します。

私は10代で妊娠出産をしました。私には、私の意志を尊重し、結婚出産を応援し支えてくれた家族や友人、先輩方がいてくれたので

上手に甘え助けてもらい孤立せず子育てをすることができました。沖縄県における若年妊産婦の比率は全国の2倍。若年妊産婦は家庭や社会から孤立しやすい状況にあり、子育てやその後の生活に困難を抱えていることが多くみられます。私は現在「うるま市若年妊産婦の居場所運営事業」の担当になり3年目を迎えます。10代の妊産婦が居場所に繋がり出産の準備や、病院や行政の手続き同行、出産後は体調回復もしないまま一人で育児や夜間授乳で睡眠不足で疲れているため主にレスパイト中心の支援を行なっています。居場所に繋がることで同年代の子育て仲間や支援者を通して社会と繋がる場となり、妊娠・出産・育児の支援を行い、若年妊産婦が孤立することなく子育て支援や自立に向けた支援を行う事がこの事業の目的です。若年妊産婦の自立していく姿や、新生児だった子が3歳になるまでの成長と一緒に見守ることができ嬉しくなります。これからも若年妊産婦が安心できる居場所を提供していきたいです。

執筆者：うるま市若年妊産婦の居場所運営事業
山城 麻美

Associa Staff

野口 萌香

所属：ソーシャルトレーニング沖縄

埼玉県出身。大学生のときに沖縄へ住み始め今年で6年目。周りからは「立派なうちな一んちゅだね」と言われるようになりました。色々な人と協力して何かを企画し楽しむこと、新しいことに挑戦するのが大好きです。就労継続支援B型の支援員として働きつつ、不登校・ひきこもり等の支援を行うボランティア団体である「養蜂園」のスタッフとしても活動しています。引きこもりだった方々が養蜂園で自分の居場所を見つけ職人顔負けの手際の良さを間近で見ていると、その人が隠し持っているスキルや魅力を引き出せるような支援員になりたいと感じるようになりました。自分の挑戦をいつも応援してくれる周りの方々に感謝し、支援員として何ができるか模索しながら、通所する方々と一緒に成長していきます！



Editor's Note

沖縄と兵庫の事業所情報を発信していると、暮らしの違いを感じます。沖縄では手軽なBBQが兵庫では一大イベントだったり、沖縄では馴染みの少ない“駅前”という言葉など。皆さんも記事から小さな暮らしの違いを見つけてみてくださいね。

執筆者：広報GM 宮里 政士

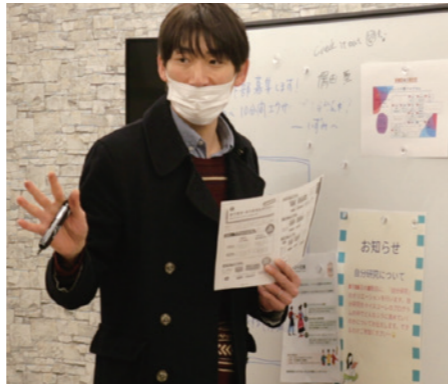
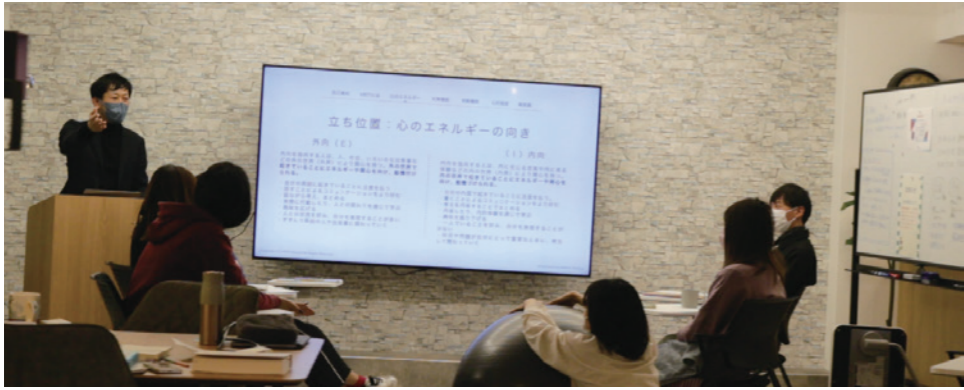
Associa
local network design

発行元：株式会社アソシア
法人本部：沖縄県中頭郡北谷町北前 1-10-8
TEL：098-926-5175 FAX：098-926-5176
MAIL：info@associa-lnd.co.jp
HP：https://associa-lnd.co.jp/

インスタグラムで情報配信中



ジョブ川西 ホイスコーレ神戸



上手くいかない現実直面している大学生の今を支えたい。 考え方や価値観は人それぞれ。

視野を広げる学び、ひとりではできない体験を。集団で意見をまとめることによる心の動きと成熟。

アソシアホイスコーレ神戸では、発達障害などによる困難さによって休学状況にある学生をサポートしています。昨年の開所から少しずつ利用者が増え、最近では互いをニックネームで呼び合うなど和気あいあいとした雰囲気になっています。

先日、ドラフト準備という授業がありました。3日後に控えるコンセプト型プログラムに向けた事前準備の時間です。選択肢の中から買い揃える食材を多数決で決めていく場面、最後1つの枠をミノ（ホルモン）VS ウィンナーで意見が割れプレゼンテーションで票獲得を競う流れになりました。推し食材を熱く語るプレゼンターは、あまりにも力説過ぎて笑いに満ちる場面でした。そして両者のプレゼンを聞きどころかに挙手するという決選。結果、ミノに軍配があがったものの市販で入手できなければウィンナーを昇格させるという合意形成に至りました。多くの選択肢から自分の基準や好みを表明し、それが多数派なら認められ少数派だと諦めるというプロセス。他者の意見を聞いて反対意見に変えたり自分の考えに留めたりと、柔軟さや堅固さが行き来するような機会だったともいえます。そして多数決によってホワイトボードに

食材が出揃っていくのを皆で眺める時間は、個の意見をもちながらも集団の出す答えに納得していくという過程でした。反対に、少数派の食材がホワイトボードから消される瞬間には「ごめんー」「ありがとう」という言葉が聞かれ、誰かの希望が叶わなかった結果を、ユーモアで優しく包み皆で手放していくという空気が流れました。負けたウィンナーに復活の可能性をみだし皆のYESが出た瞬間には、集団の成熟を感じたものです。固執や主張だけでは決まっていけない場面、折り合い方や手放し方を解っているつもりでいても葛藤はつきまといます。希望することを健全に表出し、時には譲ってもらったり逆に諦めたり。

こうした、ひとりではできない体験を提供するからこそ育ていけることがあるのだと考えています。立ち止まったからこそ出会う人や見える景色があるわけで、此处が利用者それぞれにとって視野を広げる学びの場になることを信じています考え方や価値観はそれぞれであることを体感しつつ、スタッフも含め縁あって今この時を共有する仲間として成長途中です。さて、今日はどんな1日になりますか。笑

執筆者：ホイスコーレ神戸 伊井 いずみ

Column

ご利用者との日々の関わりの中で感じた私が大切にしたい事。
～子供のように心躍る何か、熱中する何か～



相談員としてご利用者との関わりを持つ中で、頭に浮かんだ言葉があります。それは「童心に帰る」。そのまま子供になるのではなく、子供の頃のように心がワクワクしたり、何かに没頭したり、内面的な要素を含んだ意味があります。その人が若い頃に熱中した話や、趣味の話をしている瞬間が、いつもより生き生きとしているなど感じる事がこれまでにあり、「じゃあ一緒にやってみよう」、「仕事に活かせないか」等、考え実行していくにつれ、悩まれていた状況が少しずつ変わっていく事がありました。私自身を思い返した時、「子供の頃のように熱中している事はあるだろうか？」昔は心躍る事があったけれど、今は…う～ん…とこのように中々出てきませんでした。同僚に話を持ち掛けた時、釣りはどう？と言われ、そうだ、思えば学生の頃から続いている唯一の趣味で、1番私の心躍る事だと気付きました。社会人になってから、職場の中で役割や責任が増え、そこでの立ち振る舞いを人一倍気にしてしまうのが私です。でも、釣りをしている時は、好きな場所で好きな方法で、ただ純粋に楽しんでいます。人はそんな時間があるからこそ、気分転換や、自分自身を見つめ直すきっかけになり、心のバランスを保っているのだと思います。

執筆者：ソーシャルサポート川西 林本 真志

Reccomend Movie 008

この映画のサブタイトルは「政府が潰そうとした自閉症ケア施設を守った男たちの実話」である。症状の重症度に関わらず、必要とする人がいるのであれば受け入れる施設（結果、他の施設では入所を断られた人々が集まってくる）を運営する2人と施設を利用する方々の日常。いや、一般的には「非日常」と言い切れるほど様々な出来事が起こる。その中で、無認可、赤字経営、無資格のスタッフ。日本で言う厚生労働省の監査が入ることになり、閉所の危機が訪れる。無資格者を雇っている事を指摘した役人に『学歴があれば本気でぶつかれるのか？』と問いかけた主人公の言葉に私自身が揺さぶられた。ここまで人と人としてぶつかり合えるのか？様々なことを考えさせられる映画であるが、ジャンルはヒューマンコメディであり、笑えるシーンも多々あるので気軽に観ていただきたい。

執筆者：広報 GM 宮里 政士



アソシアの始まりは就労移行支援だった!? 13年で変わったニーズと未来への改革。

当然ですが、13年前アソシアは最新でした(笑)。今まで、変わりゆくニーズを捉えながら、最新であり続ける努力を続けた我々が更に変革します。数ある就労支援の手法の中、ハイブリッド式の職業訓練を始めます!

これまでを振り返り、アソシアの就労移行はどのような事業所でしたか？

- 屋良：約十数年前のアソシアは、とても利用者さんが多く、事業所全体がわいわいとしていました(少し騒々しかったかもしれませんが)。その頃は、就労移行単体でしたが1日平均で40名近くの方が通所されていました。そして、アソシアといえばカフェという印象の通り、接客や厨房、製菓や庶務に分かれた訓練コースにて各々が職業訓練に励んでいました。また、40名の方々が一挙に実践的な現場訓練に入ると空間の問題でキャパオーバーとなるため、午前・午後に座学があり、利用者さんが分散するような仕組みになっていました。しかし、ここ数年は、1日平均15名くらいの利用者数になっています。

人数の変動に伴って支援の方法は変わりましたか？

- 屋良：利用者さんの人数が減っていても、カフェのお客さんは変わらず日平均で50名程の来店がありました。そのため、現場に人手が必要となり、座学の時間が減りました。作業中心の実践的職業訓練の中で利用者個々の課題クリアに向けて取り組んでいくというのが支援の主となってました。

タイトルに「ニーズの変化」とありますが、具体的にはどのような事ですか？

- 屋良：ここ3年の間に見学に来られた方や現利用者さんからのヒアリングを行うと、

アソシアに期待している事として「人間関係の築き方を学びたい」「コミュニケーションが上手になりたい」という答えがありました。しかも、85%以上の方が求めているという結果になりました。実践的職業訓練の中でも、同様なニーズに対して支援することは可能ですが、作業に追われて希薄になりがちです。また、アンケート結果を深掘りすると、作業を行っている時のコミュニケーションというよりも休憩時間や仕事以外の時間での同僚との過ごし方などに悩んでいる方が多いことに気づきました。

このような結果と気づきを踏まえて今後はどのように支援の方法を変革していきますか？

- 屋良：大きな決断ではありますが、14年目に突入したカフェを閉店しようと考えています。そして、午前中は座学・グループワークを行い、午後に模擬訓練を行う形にします。座学・グループワークでは、職場だけでなく社会人としてのコミュニケーション能力向上を目的としてのテーマを扱い、グループワークにて他者の意見も聞きながら、個々で取り組める行動レベルの目標を見つけ、休憩時間や模擬訓練の時間に練習していけたらと考えています。

インタビュー：ソーシャルトレーニング沖縄 屋良 朝秀